

行政視察等報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 藤岡 雅哉

令和6年12月13日下記のことについて調査を行ったので、概要について報告いたします。

下記に☑

- | | |
|----------------------------------------|--------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 総務文教常任委員会行政視察 | <input type="checkbox"/> 議会運営委員会行政視察 |
| <input type="checkbox"/> 市民福祉常任委員会行政視察 | <input type="checkbox"/> 議会改革検討特別委員会行政視察 |
| <input type="checkbox"/> 建設経済常任委員会行政視察 | <input type="checkbox"/> やいづ市議会広報特別委員会行政視察 |

視察先	静岡県沼津市 自動運転バス実証実験
視察の目的	焼津市でも課題となっている公共交通の解決策として、全国で実証実験が進む自動運転バスの実証実験を確認する事で焼津市の課題解決の参考とするため

◆ 視察で確認したこと

1. 自動運転バス乗車体験

沼津市では令和6年12月7日より指定された5日間で、沼津駅と沼津港間ルートで自動運転バスを運行され、希望者は予約不要、無料で体験乗車を企画。

12月13日（金） 沼津港 14:35 発沼津駅行き体験乗車



- ✓ 15人乗り小型バス 電動自動車 最大速度40km 約15分乗車
- ✓ 乗客に対し車両を提供している ASMOvi (先進モビリティ) の社員が車両やモニターについて説明を実施
- ✓ 自動運転レベルは2 自動運転が基本だが運転手が乗車し、必要に応じてハンドル、アクセル、ブレーキ操作を介入する
- ✓ 車両には各種センサーなどが取り付けられ、社内にはセンサーの感知状況など5種のモニターでリアルタイムに変化を表示させている
- ✓ 乗り心地：発進はスムーズだが、停止時は人間の操作より急に感じる。
- ✓ 走行中に特に異常はない。
- ✓ 沼津駅に近づくと車が前に割り込んだり、路上駐車があったり、信号が急に変わったりするたびに危険回避の為にかなり頻りに運転手の介入が入った。

感想：自動運転中の走行に危険を感じる事は無く、レーダーやセンサーの機能で自動運転の技術進歩を確認する事ができた。その反面、数年前からレベル4（運転手不要の自動運転）の実験を行っている沼津市でも、実際にはレベル2で実験し、運転手の介入頻度も高く、レベル4での実装の難しさが想像できた。

2. 沼津市の自動運転バス実証実験（沼津市ホームページなど事前調査）

- ✓ 沼津駅と沼津港間の自動運転バス実証実験を本年を含め合計6回実施。
- ✓ 令和元年：小型EVバス定員14名・最高速度19km／令和2年：乗用車・6名・30km
令和4年：小型EVバス定員6名・最高速度19km／令和5年11月：小型EVバス定員6名・最高速度19km
- ✓ 毎年違う事業者に委託し、車両やシステムなどを変更した実証実験として実施。
- ✓ 令和元年～5年度11月まで静岡県の実証実験「しずおか自動運転 ShowCASE プロジェクト」に参加した事業。
- ✓ 自動運転レベル4は法改正により運行が可能だが、実際には公道ではなく敷地内の運行となっている。（福井県永平寺町、神奈川県相模原市、羽田空港）

3. 現地取材でわかったこと

取材対象1 パシフィックコンサルタンツ株式会社（委託先事業者）

Q：昨年度との違いは？

- ✓ 令和5年度との違いは、車両提供が「東急」から東大初ベンチャーの「先進モビリティ」になり、最高速度も39kmに上げ、乗車人数も15人と増やした。

Q：レベル4で実装はいつ頃？ 実現可能？

- ✓ 2027年には実装を計画。ただし現在の状況では厳しい

Q：実装に向けた難易度はどこ？

- ✓ 今回の実験では、信号機が急に替わると安全のため運転手に切り替える必要がある。
- ✓ 沼津駅周辺に近づくにつれ路上駐車が多く、安全に回避するため運転手に切替えている

取材対象2 沼津市 都市計画部 まちづくり政策課 交通政策室

Q：令和元年から長期間実証実験をされている。市長の強い意向がある？

- ✓ それはない。都市交通の在り方として研究している。副市長が国交省の方でもある。

Q：費用負担が重いのでは？

- ✓ 静岡県が進める事業に参加をしている為、令和5年度までは静岡県の予算。
- ✓ 令和6年度は国交省の100%補助事業であり沼津市の財政負担は無い。

Q：自動運転バスで解決したかった沼津市の課題は？ 公共交通の運転手不足？

- ✓ 違う。沼津港が重要な観光地。更に魅力を増す為の観光ツール（見せる交通）としての位置づけ。

Q：令和6年度の費用割合は

- ✓ ハード：市民に知らせるため路上に自動運転走行を示す緑のレーン
- ✓ ソフト：車両、運行管理、遠隔監視など

焼津市として参考となったこと

- ✓ 静岡県が積極的に取り組んでおり、参加を表明する事で、市税の負担ではなく実験に参加する事は可能だと思われる。
- ✓ 沼津市の例を見ると、6回にわたり実験をされているが、計画されている2027年の実装もおそらくは不可能。全国でも実験を繰り返しており、ある程度技術や交通に関する課題がクリアできたところで検討しても良いと思われる。
- ✓ 沼津市でも公共交通として自動運転バスを実験されているわけではなく、公共交通の課題を検討するのであれば、徹底的に地域における交通ニーズ（自家用車ではなく公共交通がどのルートで必要なのか）を調査すべきであると考えます。
- ✓ 沼津のような観光ツールとしての「見せる交通」ならば、焼津市は既に「つなモビ」を3回にわたり実験しており、実装を検討しても良いと考えます。

*上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。